

(様式2)

2022年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

2023年3月31日

福岡女子大学学長 殿

申請者

所属名  
職名  
氏名

環境科学科  
講師  
竹内 亮



事業名 (テーマ)	知ろう伝えよう「なでしこの花」プロジェクト -なでしこの花を通じた環境学習- <input type="checkbox"/> 文理統合 <input type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック☑を入れてください。		
事業実施者及び 事業分担者	竹内亮	大学院生及び 学外協力者等	公益財団法人阿蘇グリーンストック
活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること)			
<p>(活動内容)</p> <p>本事業では、本学のシンボルである「ナデシコ」をテーマに、阿蘇の草原において環境学習を実施した。本学のシンボルでもある「ナデシコ」は、草原などの拓けた環境に自生する多年草である。しかし、自然資源の利用の変化により、日本の草原面積は急激に減少している。そのためナデシコを含む草性植物の減少が、生物多様性の観点から危惧されている。本学のシンボルとなっているにも関わらず、ナデシコ、とくに自生したナデシコを見たことないという学生が多い。九州には日本一の面積の草原環境である阿蘇の草原があり、ナデシコを含む希少な草原性植物が多く自生している。また、そのような草原環境が福岡の用水に大きく貢献していることが研究で分かっている。草原というユニークな自然環境の重要性と価値を学ぶことで、公立女子大学というユニークな存在である本学で学修することの意義と価値を再発見し、学生の帰属意識の醸成につなげることを目標としている。</p> <p>具体的には以下の活動を行った</p> <p>①プロジェクト実施に向けた事前調査(参加者5名;環境5名) 本事業を実施するための調査地の選定、現地協力機関の阿蘇グリーンストックと事業内容の策定を行う。</p> <p>②阿蘇グリーンストックの採草地における採草活動(参加者21名;環境13名、国教7名、食健康1名) 地元農家および阿蘇グリーンストックのボランティアの協力の下で実際に採草活動を行い、ナデシコの生息する草原の環境がどのように守られてきたのかを学習する。</p> <p>③環境省阿蘇くじゅう国立公園のレンジャーによる草原に関するレクチャー(参加者19名;環境15名、国教3名、大学院生1名) 国立公園レンジャーから草原に関するレクチャーを受講することで、草原を含む環境保全の現場について学習を行う。</p> <p>④草原を活用したトレッキングおよびナデシコの観察(同上) 現地の観光事業者の指導の下、実際に草原に入りトレッキングを実施する。条件によってはナデシコが実際に生えている環境を観察し、なでしこに対する関心と本学への帰属意識を高める。</p> <p>⑤野草堆肥を活用したナデシコプランター6基の作成(参加者4名;環境4名) 阿蘇の草原で採草した野草をつかった草原堆肥を利用して、本学構内になでしこのプランターを作成する。</p> <p>(成果)</p> <p>事業を通じて総計68の学生が本教育活性化事業に参加した(同一の学生を含む)。何れも参加した学生にアンケートを実施している。</p> <p>【活動の様子】※詳細については別に提出する写真資料を参照</p> <p>①の活動では竹内研の学生が主体的に計画を作成し、現地協力者とオンラインで会議を重ね、現地調査を行った。そのことにより以降の活動を安全かつ充実した内容で実施することが可能となった。</p> <p>②の活動では、関係者の指導を受け安全に予定していた活動を実施することが出来た。なお引率役や昼食、交通の手配を竹内研3年が行うなど、学生主体の活動となっていた。ナデシコの生息環境を保全することにもつながる、阿蘇の伝統的な採草活動の体験を通じて、環境保全における農業の役割を学習することが出来た。</p> <p>④の活動については、想定したよりも体力が必要な内容になったが、プロの指導により安全かつ楽しく活動を行った。また、ナデシコの観察を行うことが出来た。</p> <p>アンケートからは、②、③、④ともに参加学生が、内容について高い満足度を示していることが分かった。※詳細については別に提出するアンケートを参照</p> <p>⑤については、大学構内においてナデシコのプランターを作成した。その際には①の活動と関連した阿蘇の草原で採草した野草堆肥を利用している。またナデシコのポット苗を60作成する予定である。同ポットは100周年記念事業で活用することを検討している。</p> <p>【教育効果について】※詳細については別に提出するアンケートを参照</p> <p>事業に参加した学生へのアンケート調査からは、狙いの通り、本事業を通じてキャンパスでの学びに基づいた実践的な環境学習が実施出来たと考える。また、福女大生の価値を再発見し、学生の帰属意識の醸成することにつながったと考える。本事業に協力下さった、公益財団法人阿蘇グリーンストックおよびボランティアの皆様、地元農家様、環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所、あそBe隊様に感謝を申し上げます。</p>			